

令和2年度 入学式 式 辞

この度の第75回入学式実施に当たっては、国から新型コロナウイルスの感染拡大防止のための緊急事態宣言が出される中、生徒の皆さんの安全確保を第一に考え、当初の予定から延期をしました。

本日から学校再開が可能となり、やっと入学式を実施することができましたが、当初の予定と同様に規模を大幅に縮小しての実施を余儀なくされたことについては、大変残念なことであると思っています。

しかしながら、4月8日付けで入学を許可しました、365名の新入生の皆さんの入学を祝福する気持ちにいささかの変わりもないということを初めに新入生の皆さんにお伝えしたいと思います。

新入生の皆さん、改めて入学おめでとうございます。浦和西高校は皆さんを心から歓迎します。

浦和西高校は、昭和9年に開校して以来、今年で創立86年を迎える県内屈指の伝統校であり、進学校です。この間、本校は2万6千名を超える卒業生を輩出し、卒業生は政治・経済・行政、学術・文化・教育、マスコミ、スポーツ界など、社会の様々な分野でその才能を発揮し、活躍しています。

本校の使命は、自主自立の精神のもと、知性と教養を磨き、将来国際社会に貢献できる人材を育成することにあります。

新入生の皆さんにも、このような使命が西高と西高生にはあるのだということをぜひ胸に刻んでほしいと思います。

さて、今日は、皆さんの西高生としての生活が始まる記念すべき日ですので、私から皆さんに、高校生活においてぜひ取り組んでほしいことを2点お話しします。

1点目は、「夢を持ち、その実現に向かって努力してほしい」ということです。

埼玉が生んだ、実業界における明治・大正期最大の指導者である渋沢栄一は次のような言葉を残しています。

夢なき者は理想なし。理想なき者は信念なし。

信念なき者は計画なし。計画なき者は実行なし。

実行なき者は成果なし。成果なき者は幸福なし。

ゆえに幸福を求むる者は夢なかるべからず。

この言葉では、結論として幸福を求める者は夢を持っていなくてはならないと説いています。

現在の日本は、地球規模で人・モノ・金・情報が流通するグローバル化の中で、エネルギー問題、経済問題、少子高齢化問題など、極めて多くの複合的な問題に直面しています。新型コロナウイルス感染拡大という事態は、グローバル化の中でもマイナスの側面が背景となって起きた問題です。

このように複雑な問題を抱えた時代状況の中で皆さんは高校生となるのですが、これからの日本の将来を担う皆さんが状況に尻込みしては明るい未来はやってきません。未来の幸福を手にするために、皆さん一人ひとりが夢を持って、明るくさわやかな高校生活を送ってほしいと願っています。

しかし、夢は抱いているだけでは実現には至りません。渋沢栄一の言葉にもある「計画」と「実行」が必要です。新しい世界の扉を開け、まずは地道なしっかりとした計画を立ててください。そして、勇気と忍耐力を持ってその計画を実行し、夢を実現していきましょう。皆さんの努力を惜しまぬ姿を西高の教職員一同で全面的に支援していきます。

2点目は、「他人の立場を思いやる心を持ってほしい」ということです。

欧米社会では「自分がしてもらいたいと思うことを他の人にしなさい」という言葉が黄金律として深く浸透しています。

私たち日本人も『論語』にある孔子の「己の欲せざる所は人に施すことなかれ」という言葉から同じ意味を学びとることができます。

私たち人間は一人で生きることができません。今皆さんがここにこうしていられるのは、多くの人々の支えがあってのことだということをしっかりと認識してほしいと思います。

その認識を出発点とすると、人への感謝の気持ちが生まれてきます。その感謝の気持ちが人を思いやる心へとつながります。

価値観の多様化、人間関係の複雑化が進展する中、新型コロナウイルス感染拡大という新たな危機に直面した今こそ、他人を思いやる心が必要です。相手の立場になって物を考え、他人の心の痛みが分かる人間が一人でも多くなることによって、社会はより住みやすく豊かになることでしょう。

西高で学ぶ皆さん一人一人が将来社会のリーダーとなる人材として、その先駆けとなってほしいと思います。

結びに、本日御参列いただけなかった保護者の皆様に対し、お子様の御入学を心からお祝い申し上げますとともに、新入生の皆さんの西高での高校生活が充実したものとなることを祈念しまして、式辞といたします。

令和2年6月1日

埼玉県立浦和西高等学校 第30代校長 杉林 正敏